一般質問

みなさんの生活にかかわる大切な内容について質問しました。

境田「外国人労働者・技能実習生の実態把握は」
町長「啓発していきたい」

副議長
文教厚生常任委員

境田敏高

こんなに多い外国人労働者

人口減少や少子高齢化社会の中、特に働き手の中心となる15～64歳の生産年齢人口は過去最低である。人手不足解消が喫緊の課題となっている。
深刻な人手不足に対処するため、今年の４月１日から改正入管難民法が施行された。近年、町内で外国人とみられる方が度々見受けられる。どこの国から来てどこに住み、またどこで働いておられるのか見えにくいものがある。そこでわが町の現状を尋ねる。

（まちづくり課長）令和元年５月末現在で外国人登録者は160名で、そのうち技能実習生としては132名、国別ではベトナム89名、フィリピン21名、中国20名、カンボジア２名である。行政区ごとには掴んでいない。住まいは民間のアパートが多い。製造業が一番多く他にはホテル業や農業などである。

南関町の外国人労働者には、日本語がスムーズに通じない。
文化や習慣の違う外国人とどのように接し、理解を深めるか難しいところがある。解決策の一つとして地域の行事に参加してもらえるようお互いに努力が必要である。
特に、避難要請などの連絡体制、会社と町、また地域の取組みはどのようになっているのか。

（町長）事業所ごとに様々な情報伝達方法を取られている。町として災害時の情報伝達についての取組みは、現在のところない。今後、各事業所との連携など、取組みが必要になるものと思う。

町に働く臨時・非常勤職員の処遇

来年の４月１日から、臨時・非常勤職員の任用要件の厳格化が行われ、「会計年度任用職員制度」への必要な移行を図るとしている。会計年度任用職員が導入されれば、期末手当等の支給が可能となる。
わが町は、どのように対処するのか。また取り組む場合、どのような課題があるのか尋ねる。

（町長）町では、この会計年度任用職員制度への移行のため、準備を進めている。遅れても12月議会定例会に条例案を提案する。
課題と言えば、給与や報酬、手当などの給付水準、給与体系をどのようにするかである。

町の重要課題は、まちおこし

まちおこし、地方創生は、町にとって最重要課題である。
議会としても、全議員がまちづくり課に総合戦略を提出した。南関町議会に地方創生調査特別委員会を設置し研修も行った。「行政にたよらない地域再生」に取り組み、住民自治の成功例として鹿屋市串良町柳谷地区通称「やねだん」などへ行き努力してきた。そこで最終年度が迫っている時点での総合戦略の取組み・成果をどう評価しているか。また町おこしを今後はどのように続けていくのか尋ねる。

（町長）概ね計画通りに進んでいる。住民一人ひとりが輝き、夢と希望がかなえられるよう南関町全体を網羅した南関版コンパクトシティ構想策定に向け進み始めた。引き続き「住んでみたい」「住んでよかった」と思って頂ける環境の整備に努める。

まとめ

住民と南関町に来られている外国人労働者が安心して生活が出来る環境を作り、母国に帰って「南関町に行ってよかった」と言われるようにすべきである。
会計年度任用職員制度については正職員が減る傾向にあり、非正規職員が担う現状が進んでいる。非正規職員も処遇改善に取り組み、待遇などは該当者と話し合いをもとに早目に進めていくことが必要である。
地方創生では執行部も努力してきた。
第２期目の地方創生では町での雇用を確保し、若者が南関町に定着するようにし、南関町の経済を潤うようにすべきである。

一般質問

みなさんの生活にかかわる大切な内容について質問しました。

地方創世調査特別委員長
文教厚生常任副委員長
広報常任委員

北原浩一郎

北原「これからのまちづくりは、住民主体の自治組織がカギになる」

生きる力

知・徳・体の育みへの対策について。

（教育長）①ＩＣＴ機器の活用で業務改善を推進し、より質の高い教育の提供を通して学力向上を図る。
②小学校に英語の専門教員を配置し、幼児英語教育から小中学校９年間の英語教育の形ができた。さらに英語教育の充実に力を入れる。
③学校と地域、双方向の関係づくりが重要。町の現状を知り、少子高齢化や人口減少が進む実状に目を向け、自分たちに何ができるのかを考え、実践する活動の積み重ねを通してキャリア教育を充実させる。

課題解決力

小、中学校の総合的な学習の時間は、どのような授業をされているのか。

（教育長）南の拠点が水俣、県北の拠点のエコアくまもとを、総合的な学習の時間の年間計画の中に入れ込んで、学習するようにした。熊本地震の影響で廃棄物を入れるのが早くなってきている。今の５、６年生達が、大人になった頃に満杯になる。満杯になった段階でどう活用していくか考えるのは、課題解決の力を育むことにつながる。

協働のまちづくりが合格点？

町長の考える協働のまちづくりの理念と評価を。何点ぐらいの点を付けられるか。

（町長）住民全てが自分たちの町は自分たちの手でという自治意識を持ち、住民、地域、行政がそれぞれの責任と役割を認識し、協力し合うことが必要である。協働のまちづくり出前講座の開催、コンパクトシティ構想策定委員会委員の公募、自主防災組織活動の支援、また生活に密着した町道や町活性については協力地域の方でお願いしているところで、地域づくり補助金制度や町道等環境整備事業補助金制度も創設している。点を付けるのは非常に難しいが、合格点ではあると思っている。

協働とは町民主体

協働まちづくりの原点は主役である町民が自らの責任により自分が地域のために何ができるかと主体的に社会に関わることである。町には行政区をはじめ様々な組織団体があるが団体間での連携は弱い。例えば消防団には団員確保という課題がある。消防団内の課題とせず、地域の課題として取り上げれるように、垣根を越えて協働し課題解決する仕組みが必要だ。町長は、小規模多機能自治組織をご存知か。

（町長）小規模多機能自治組織、聞いたような気もするが、実際そこについて詳しく調べたことはない。

新たな自治に向かって

この自治組織は校区を範囲とし地域の課題は地域で解決することを前提とする。町にお願いする姿勢ではなく、まずは地域で考え解決を目指す。地域を守り育て地域で稼ぎ運営する、その自立した自治組織と行政が両輪になるところに協働のまちづくりの姿があると思う。健康づくり、生きがいづくり、子育て支援、地域食堂、介護の支援、地域見守り、防犯防災、伝統文化の継承、移住、定住、空き家対策などその組織でやる。この組織作りに取り組まないか。

（町長）今の活動とそういった新しい活動をどう結び付けていくかというのが非常に難しいところなので、そういったできれば実際やっておられるところがあるならば、見てみたいと思うし、これからそういったところも勉強はしてみたい。

まとめ

人は人と関り成長する。地域が主体となって、子供から高齢者までが活き活き元気にする地域づくり組織を作ることが南関町に呼びかけられている。

一般質問

みなさんの生活にかかわる大切な内容について質問しました。

立山「南関町の将来の農業ビジョンはどのように描いているか?」
町長「南関町総合振興計画に基づく農業の振興を図っていく!」

議会運営委員会副委員長
総務産業常任委員
有明広域行政事務組合議員

立山秀喜

圃場整備と担い手

南関町の将来の農業ビジョンをどのように考えているか。特に圃場整備が済んでいる地域、今後圃場整備を計画している地域に対して、どのような農業振興を考えているか。又圃場整備が済んでいるところについて担い手がどのくらいいるか地区別に把握できているか。年代別にどのような割合になっているか。

（町長）農業を取り巻く情勢は、全国的に農業従事者の高齢化や後継者不足により今後の農業を守り、活性化していくのは非常に厳しい状況である。国や県についても、農業の振興を図るために様々な対策がなされている。町としても昨年策定した総合振興計画に基づく農業の振興を図っていくこととしている。農業の振興を図っていく上で一番の要は圃場整備の実施であり、昨年度をもって南関西地区の高久野地区を最後に中山間地域総合整備事業の面工事が完了して39%の圃場整備率になったところである。その後新規の圃場整備を18地区、111ha推進しているところである。圃場整備後の振興をどの様に進めていくのかが非常に重要な部分である。昨年８月に本町では初めての農事組合法人「よなだ」が設立され、安定経営に向け取り組んでいる。

（経済課長）担い手の状況は、１小校区23名、２小校区33名、３小校区18名、４小校区９名、それから肥猪地区では農地集積事業を活用されている。年代別には調べていないが、40代が10%、50代が20%、60代以上が70%程度ではないかと思う。

全体の担い手が80名程度で、圃場整備地区の担い手の育成はどの様に進めているか。

（経済課長）担い手だけの育成は特にしていないが、振興局との就農相談会など行い若手農業者の育成や確保に努めている。圃場整備地区を対象に数年前に２回ほど集落営農組織の説明会を実施した結果昨年、農業組合法人「よなだ」が設立された。

（町長）農地の集積と集約化と担い手の育成は切っても切れないものがあり、条件がそろい担い手が育つということになり、集落営農組織との繋がりが実現するように進めたいと思う。

農業高度化事業 支援

農地集積ができて初めて、集落営農とか農業法人を作らなければいかんという考えが地域から起こってくるのではないかと思う。それは、農業は機械化貧乏といわれるように農業機械はほとんどの方が個人で持っており非常に高価になっているわけである。町では単独の高度化事業があるが認定農家や新規就農者が対象となり、どれだけの要望があり、何件補助対象になったか。今後は個人でなく集落営農や農業法人を立ち上げて組織化した地区に対しての支援を考えられないか。

（経済課長）申込みが20件あり13件が対象になり７件は予算オーバーになったところで、事業内容の変更も検討しているところである。

（町長）国、県の補助以外で町の補助ということになると、全体的な農業の振興ということで、これから組織化をされる、そして農地の集積とか集約をするということで農業の振興を進めていくとするならば、今までの高度化事業も含めて全体の見直しも考えらえないことではない。

一般質問

みなさんの生活にかかわる大切な内容について質問しました。

杉村「バンブーフロンティア事業本格稼働はいつになるか!」
町長「バンブーフロンティア事業の全てが大幅に遅れている」

総務産業常任委員
地方創生調査特別副委員長
有明広域行政事務組合議員

杉村博明

状況が見えない

バンブーフロンティアは竣工後１年以上経っているが、本格稼働がいつになるかまだ見えてなく、部分操業はされているにも関わらず、未だに本格的な操業に入っていない、フル稼働していない状況にあり、その点について質問する。

バンブーフロンティア事業の竣工後、本格的稼働がされていないが町として現時点でどこまで把握しているか、町としてはどの様に考えているかを聞く。

また、国・県を巻き込んだにも関わらず議会にも報告がないままであり、この状況で住民の皆さん方に報告するにも今の状況がどのような状況かということを、議会の中にも報告がないということに非常に危惧しており、また、補助金等交付されているにも関わらず、総務産業常任委員会、全員協議会等で視察に何度も行っているが、未だに本格的な稼働がされないまま２カ月後、３カ月後という話であって、いつになったら本格的な稼働になるか、その状況を町が把握しているのか、詳しい説明を求める。

（町長） 昨年２月11日にバンブーフロンティア株式会社、バンブーマテリアル株式会社の竣工式が行われ、竣工時点での計画では、バンブーフロンティア株式会社はすでに新建材の孟宗竹の買い取りをはじめられており、また今後原料の確保を行うための設備を整備していくとのことであった。

バンブーマテリアル株式会社は同年３月に建築材の試作品製造を始め本格稼働については５月頃を見込んでいるとのことであった。

バンブーエナジー株式会社は本年１月から稼働を予定しているとのことであったが、実際には議員指摘のとおり全ての事業が予定より大幅に遅れている状況であり、町としても計画が予定通り進んでいないことは気にかけており、企業にも問い合わせ等行い、情報の収集に努めてきたが、導入設備が外国製であるため日本への輸入の際、想定以上に時間を要し、予定より大幅に遅れたことや設備設置後の調整にかなりの時間を要したことが重なり事業が遅れたと聞いている。

また、製品の製造状況については、会社に確認したところナンカンボードはラインでの製造行われているとのことであったが、現在はまだ国の認定等がないため建築資材としては使用できないため、梱包材として出荷しているとのことである。

まとめ

バンブーフロンティア事業にはこれまで総務省の地域経済循環創造事業補助金５０００万円、国の農業関係の成長産業化支援機構４億円、ＮＥＤＯと呼ばれる産業技術総合開発機構から約１３億円、竹の買い取りのほうで地方創生交付金１０９万５７３０円が支払われており、今回の補正予算で産業振興等奨励金として５４０１万５０００円が支払われる予定であり、国県・町の期待は大きく早期のフル稼働を実現してもらいたい！
議会人として、注視していく必要がある。

一般質問

みなさんの生活にかかわる大切な内容について質問しました。

打越「救急医療対応について」
町長「二次救急病院が対応している」

総務産業常任副委員長
監査委員

打越潤一

午後10時以降の深夜対応

現在、町の緊急医療体制は？

（町長）現在玉名・荒尾・大牟田・山鹿地域など南関町近隣での休日及び平日夜間、深夜において対処できる医療機関の体制はまず休日在宅医・当番医制により休日昼間に対応されており、平日夜間や深夜及び休日での救急では救急診療体制運営事業での二次救急病院が対応している。二次救急病院は２４時間体制となっており、玉名地域医療センターとは小児科を中心とした平日夜間午後７時から午後１０時までの診療を委託している。小児科に限った診療対応では、休日の午後７時から午後１０時までは公立玉名中央病院などあるが、午後１０時以降の深夜となると熊本地域医療センター、熊本赤十字病院での対応となる。

玉名地域医療センターと玉名中央病院を統合した地方独立行政法人熊本県北病院は新しく玉陵中学校の横に建設されているが、救急医療体制はどのようになるのか。

（福祉課長）センターの詳細な医療体制、内容についてはまだ掴んでいない。今後情報を収集していきたい。

小児科は午後１０時までは、二次救急で近くの拠点病院があるからいいが、それ以降は熊本市までいかなといけない。有明広域圏で設置の要望ができないか。

（福祉課長）現時点では詳細はわからないが、近隣市町村で要望が高まっていけば広域的な視野で要望に繋がっていく。

ひとり下校

幼保、児童生徒の登下校の対応について。

（町長）町内の保育所、認定こども園各小中学校へ児童生徒の登下校時の安全確保を始め、園内、校内での不審者対策を改めて指示した。子どもの安全確保に関しては、これまでも対策を講じてきたが、今後もこれまで以上に町、警察、学校、保護者、地域の間で連携を密に図り、子どもたちの大切な命を守っていきたい。

安全対策、人命を守るにはどう対処すべきかマニュアルを作成し各校に通知させているか尋ねる。

（教育長）通学路、交通安全プログラムで危険箇所とか危ないところを点検し、会議を持ちながら随時危険箇所も確認している。
登下校の防犯プランの見直しをしながら、一人歩きができるだけ少なくなるように対応等をお願いしてきている。更に見守り等を強化し安全対策に繋げていく。

ひまわり幼稚園、文化幼児園、こどもの丘保育園の登下校の現状はどんな状況か。

（福祉課長）ひまわり幼稚園は園でのバスが路線を走っており、保護者の方が直接園のほうに送迎されてもいる。また子どもの丘、文化幼児園については、各保護者の方が園のほうに送迎で対応されている。

各小学校の下級生の下校はどうか。

（教育長）一人で帰るという部分は極力避けて、低学年の子どもたちも一緒に帰れる分は一緒に下校する体制をとっている。下校時刻については１週間前のお便りで何時に終わりますと保護者にも連絡をしている。どうしても一人下校になる場合は、保護者の迎えに頼らざる得ない状況にある。

まとめ

少子高齢化社会において小児救急医療体制の整備充実を願うものである。貴重な子どもたちの命を育て守るために家族、地域みんなで情報の共有、それぞれの地域でも子どもたちを見守り、取り組みをなお一層続けていかなければならないと思う。

生の声を聴く

婦人会 & 広報委員

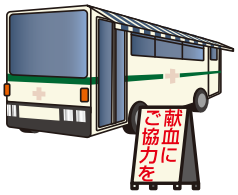
広報委員会では、町民の皆さんからのさまざまな生の声を聴き、議員活動の活性化と住んでよかった町づくりの一助になればと考えています。
このコーナーは、登場団体の統一見解でなく、登場された方達の声であり、これ以外にもいろんなご意見があると捉えています。読んで頂いてから「こんなこともあるよ」「こうしたことも要望したい」など、登場された方達だけでなく、読んで頂いた方達の生の声も議会にたくさん届くことを期待して、このコーナーを始めました。

Q「まず現状の会員数を教えてください。時代と共にどう変化していますか？年代層の分布はどうなっていますか？」

- 会員数は、引かれる高齢者の方もおられるが、若い方の入会もあり、少しずつ増えている。現在146名で、150名を目標に、それを維持することを目標としている。
- 昭和30年、旧南関町、賢木村、大原村、坂下村、米富村の１町４村が合併して南関町になったことから、それぞれの婦人会を統合して誕生。昭和56年までは、会員数1,500名以上でしたが、徐々に少なくなっていき、平成13年で最低数の130名となった。そこが底となり、その後は微増だが増えていき、150名前後で推移している。
- 年齢分布は、70代が一番多く、60代、50代、80代の順で構成している。

Q「婦人会という名は、昔からよく聞いてますが、活動の目的は ？具体的な活動内容は？」

- 会則には「会員相互の融和をはかり、教養をたかめ、婦人の地位の向上を期するために次の事業を行う。
  1. 教養に関する事項　2. 厚生福祉に関する事項
  3. 親睦融和に関する事項　4. 奉仕活動に関する事項
  5. 産業の振興に関する事項」とあるように、すごく幅が広い。
- その流れの中で活動内容も多岐にわたる。献血や交通安全運動の推進。関所まつりなどのイベントではだご汁などを出店。廃油石鹸やゴキブリ団子なども作っている。青少年健全育成のために親子ペタリング大会、親睦を深める研修旅行を実施し、有事の際には一番動くことができる組織と考えている。



- 発足当時は、戦後の混乱期で大変な苦心があった時期、社会の現状を打開するために婦人たちが立ち上がったと聞いている。今でも核家族化と社会連帯感の希薄化などの中で、活動により地域コミュニティを高めたい。

Q「婦人会に入って良かったなあと思う事は？　つらいと思う時は？」

- 良かったなあと思うのは、人との繋がりが広がるし、たてよこのコミュニケーションが取れること。
- 活動を通じて、自分自身勉強になることが多い。
- 社会貢献をしていることへの充実感、幸せ感がある。
- なにより自分のためになっていることが嬉しい。
- 楽しい活動ばかりなのに、誘っても思いが伝わらないのが悲しい。
- 受け入れてもらえず、会員さんになってもらえないのがつらい

Q「全国的に、婦人会の存続を危惧する話をよく耳にしますが、南関町婦人会の今後はどう展望されていますか？」

- 広報委員・・・この質問に入ると、広報委員との間で質疑そして対話が始まりました。見えてきたものは・・・。

- 「南関町婦人会は〇〇をやっているね」と言われるように、注目を集めるオリジナリティ（独自性）のある活動を何か始めたい。
- 「なんでもやっているよ」では中が分かりにくいと言われるので、見えるようにしたい！
- 会員勧誘にパワーを使うのでなく、入りたくなる、共感を呼ぶ活動に力を入れる。
- まず会員にこだわらず、諸活動への参加者を増やしていきたい。
- 無理をしないで、継続的にみんなで続けて行けるものを、みんなで考えたい。
- 何でも自分達だけでやるのでなく、外部との連携や協力を得ながら進めることも考えたい。
- 婦人会の魅力を感じて、南関町女性の参加が増えていくようにしたい。

会計　永松（ながまつ）　泰子（やすこ）さん

副会長
釘崎（くぎざき）　真貴子（まきこ）さん

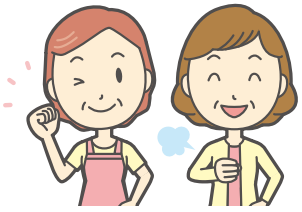
会長　熊谷（くまがい）　喜代子（きよこ）さん

副会長　北原（きたはら）　恵子（けいこ）さん

部長
山口（やまぐち）　純子（じゅんこ）さん

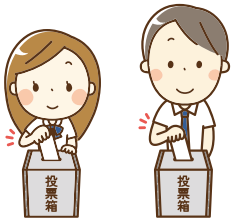
Q「行政に要望することは？」

- 最初からお願いする、あてにするのでなく、まず自分たちのオリジナリティを考える。
- その中に協力、援助を求めたいことが出てきたら、お願いしたい。



Q「我が町も若い人や現役世代の投票率が低下して来ていますが、この現象についてどう思われますか？また上げるためにはどうしたらいいと思いますか？」

- 我々は投票率を上げる活動している。
- 会員はまず自分の家族に投票に行くように呼びかける。
- 地域の方達にも声掛けする。
- 効果的なのは、子ども達から両親に「投票行ったね」と声をかけてもらう。
- 投票回数にポイントを付けて何かに生かせるシステムなど、関心を外から呼ぶことも考えたらどうか。



「生の声を聴く」を終えて・・・

婦人会は全国組織につながる地域コミュニティの原点でもあり、65年以上の長き活動の歴史があります。発足当時は、必要とされ期待もされて、一方では自ら参加しお役に立ちたいとの精神で会員数は多く、活動も活発に運営されてきました。しかし時代は変わり、地域環境も変わり、人の営みも変わってきた中でも、会員として、その精神・方針を受け続けて行かれていることには敬意を表します。

役員の皆さんの話を聞いていると、毎年きめられた活動をこなしていくことに喜びを感じられているが、外から見ると、させられている感があり、入会をためらう人の気持ちも分かる感じがしました。

「今後の展望は？」の質問の時に、この疑問を遠慮なくぶつけました。そして素直な議論、対話が出来ました。このやり取りが一番時間を要しましたが、紙面の関係で結果だけを掲載します。

何か新しいことにチャレンジされる意気込みを感じ、ワクワクしました。町民の注目をひき、参加者が増え、結果会員も増えていく未来像が見えてきました。

広報常任委員会

南関中２年　坂梨（さかなし）　ひなた さん

私が考える、南関町の未来

南関町に住む18才未満の人たちに、町の未来を語ってもらうコーナーです。

私は写真を撮るのが趣味です。撮ったものの中から選んで、それを印刷してアルバムを作っています。人の写真や自然の写真を撮っていて中でも多いのが空の写真です。夕日と飛行機雲の写真や月と花の写真など地面に近いものと空に高くあるものを一緒に撮ります。

私は写真を撮るなかで、一日一日外の色が明るかったりくすんでいたりして違ったりすることや周りに高い建物が少ないことに気づきました。また、緑が周りに沢山あって花もいろいろなところに咲いていることにも気づきました。

私は大津山公園のすべり台の上にある広場が好きです。沢山の木があるので一つの広場で季節を感じることができるからです。また、少し周りを歩けばいろいろな花や木が見られるからです。南関町は景色がきれいで、自然豊かです。そこが南関町の良さだと思います。私は南関町がこのまま自然豊かな町でありつづけてほしいです。

議会傍聴しませんか

6月定例議会の傍聴人数はのべ 14人でした。
6月11日㈫：8人、6月12日㈬：3名、6月13日㈭：3名

次回は、９月定例議会　●どなたでも傍聴できます。　●定員 30人

議会日誌

■4～6月

- ４/１㈪　広報常任委員会
- ４/15㈪　総務産業常任委員会
- ４/18㈭　全員協議会、広報常任委員会、地方創生調査特別委員会
- ４/25㈭　文教厚生常任委員会、広報常任委員会
- ５/17㈮　総務産業常任委員会
- ５/23㈭　文教厚生常任委員会
- ５/27㈪　全員協議会、地方創生調査特別委員会
- ５/31㈮　議会運営委員会
- ６/11㈫～13㈭　６月定例議会
- ６/27㈭　地方創生調査特別委員会

■年間スケジュール

定例議会 ４回……３月・６月・９月・12月
閉会中は、懸案事項を各常任委員会で調査研究します。他に全員協議会や臨時議会、陳情、請願に対する審査・視察・研修などを行います。

ティーブレイク

７月１７日(水) 午後から第二小学校五年生の田植えの体験学習を行いました。１アールほどの田んぼを植えますが、子どもたちはワイワイと楽しそうに植えていました。良いお米（農作物）を育てるためには、愛情と日々の観察です。子育てと同じです。秋の餅つきにおいしいもち米が食べられるように５年生と一緒に愛情と観察をして育てたいと思いました。　（西田）

□ 発行責任者
議長　橋永 芳政

□ 編集(広報常任委員会)
委員長　中村 正雄　　副委員長　西田 恵介
委員　北原 浩一郎　　委員　鶴地　仁